

評価者	歴史まちづくり推進担当担当部長 桝淵 規彰
評価者	文化財部長 桝淵 規彰

◎ 評価対象分野・施策の方針

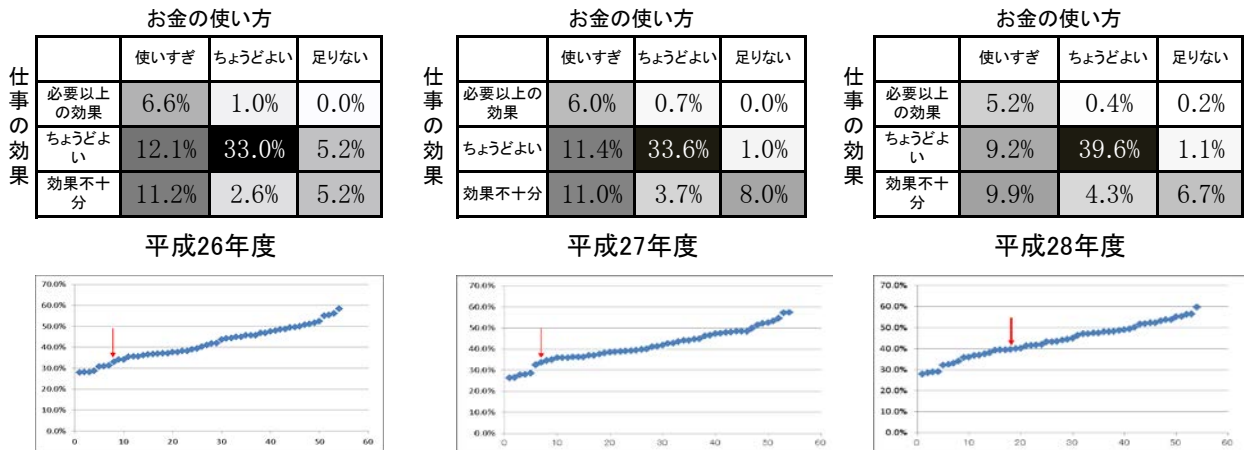
総合計画上の位置付け	分野	歴史環境	施策の方針	文化財の保存、調査・研究、情報の充実
------------	----	------	-------	--------------------

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成26年度	21.8%	平成27年度	18.6%	平成28年度	18.8%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

<妥当性の分析>

◎歴史まちづくり推進担当

平成28年度はお金の使い方、仕事の効果ともに、「ちょうどよい」と回答した人が前年に比べて6%ほど増加した。さらに、お金の使い方については、「使いすぎ」と答えた人の割合が前年に比べて全ての項目で減少しており、市民意識調査における費用の妥当性は、前年に比べて適正と認識されている傾向が見られる。事業の認知度が前年のほぼ横ばいであり、取組を知らない・わからないと答えた人は20%を下回っており、比較的広く認知されている取り組みであると考えられる。平成29年5月に開館する鎌倉歴史文化交流館については、今後市内外の来訪者に親しんでいただく施設となるよう、施設開館の周知を含め、事業の内容や意義について積極的に発信する必要がある。

◎文化財部

「仕事の効果」、「お金の使い方」がちょうどよいの割合が39.6%で最も高く、一定の評価はあるものの「お金の使い方」について「使いすぎ」の合計が24.3%、「仕事の効果」が「効果不十分」の合計が20.9%など、割合も高い。平成26年度から28年度の経年変化を見ても、お金の使い方について「使いすぎ」が平均27%、仕事の効果について「不十分」が平均20%となっており、5分の1が効果不十分の印象を持たれている。

今後については、文化財の保存を優先しながらも、市民の目に見える保存修理結果の方策を講じられるように、効果的な予算執行を行っていきたい。

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答	全体
平成28年度	16.0%	51.5%	8.9%	23.6%	100.0%
平成27年度	18.7%	45.1%	11.4%	24.7%	100.0%
平成26年度	13.8%	45.5%	12.6%	28.0%	100.0%

2 内部評価

(1) 平成28年度の目標

◎歴史まちづくり推進担当

①(仮称)鎌倉歴史文化交流センターの平成29年4月の開館を目指し、建物改修工事、展示製作業務等を引き続き実施する

(歴史-03)。

②敷地及び建物の維持管理、運営、文化施設としての活動等、開館後に必要な業務の準備を進める(歴史-03)。

③施設の設置条例を定める(歴史-03)。

◎文化財部

- ①引き続き発掘調査体制の強化を図るとともに補助金制度の利用を促進し、発掘調査待機時間と資料整理未着手案件を縮減していく(文財-05)
- ②現在継続している修理等を着実に進めるとともに、新たな修理案件については、緊急性、必要性の把握に努め、優先順位をつけながら適切に実施していく(文財-06)。
- ③文化財に対する啓発を図るため、教員や子供たち等に発掘現場見学の機会を設け、教育や学習に役立てる機会を作る(文財-07)。
- ④鎌倉国宝館では、課題であった昇降機更新・免震設備対策を着実に実施し、利用者の利便性向上と文化財の確実な保存に努める(文財-08)。

(2) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		今後の方向性	
整理番号	事業名	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	平成27年度	平成28年度	事業内容	予算規模
歴史-03	(仮称)鎌倉歴史文化交流センター設置事業	64,901	524,247	84,036	556,145	2.5	4.0	a	C
文財-05	文化財調査・整備事業	77,856	82,676	105,066	113,913	3.5	4.0	a	A
文財-06	文化財保存・修理助成事業	60,464	57,306	72,126	69,020	1.5	1.5	b	B
文財-07	公開宣伝事業	1,596	1,560	9,370	9,369	1.0	1.0	b	A
文財-08	国宝館管理運営事業	49,196	114,186	79,349	144,141	4.0	4.0	b	B

(3) 主な実施内容

【主な実施内容】

◎歴史まちづくり推進担当

- ①(仮称)鎌倉歴史文化交流センター改修工事、導入路整備工事、外構工事を行うと共に、(仮称)鎌倉歴史文化交流センター展示製作業務を実施した(歴史-03)
- ②庭園管理や施設管理業務等、公有財産の維持管理を行った(歴史-03)
- ③前年に引き続き、国補助金(集約促進景観・歴史的風致形成推進事業補助金)、県補助金(市町村自治基盤強化総合補助金)の補助対象事業となり、平成28年度内に事業が完了した。(歴史-03)
- ④鎌倉歴史文化交流館条例を制定した(平成29年3月30日公布)(歴史-03)

◎文化財部

- ①平成27年度に創設した発掘調査費補助金制度の利用を促し、発掘調査実施の待機時間の削減に努めた(文財-05)。
- ②指定文化財等の保存管理については、優先度の高いものから適切に保存修理事業が行えるよう、国庫や県費の補助金を活用しつつ、文化財の所有者と密に連携をとりながら、事業を実施した(文財-06)。
- ③遺跡調査研究発表会や文化財めぐりを開催し、本庁舎文化財課カウンター前に市内出土の遺物を展示するなど、市民や市内の子どもたちへの啓発事業に取り組んだ(文財-07)。
- ④鎌倉国宝館では、昇降機の更新、免震型展示ケース2台の導入を行い、利用者の利便性向上と文化財の確実な保存に努めた(文財-08)。

【実施できなかった事業とその理由】

◎歴史まちづくり推進担当

平成28年度当初は平成29年4月に開館する予定だったが、竣工が年度末となったことから、その後の準備作業(展示品の搬入、展示作業等)に時間を要したため、開館時期を平成29年5月に延期し、引き続き開館準備を行うこととした。(歴史-03)

◎文化財部

- ①発掘調査実施までの施主の待機期間は短縮されているが、報告書未刊行資料はいまだ多く、発掘調査終了から報告書刊行までにかかる期間の長期化は解決されていない(文財-05)。
- ②文化財の円滑な修理を行うための方針の明確化が、できなかった。(文財-06)。
- ③遺物の展示場所の確保が十分とは言えない。再整理済み出土品のより良い活用方法についても、今後検討していく。(文財-07)。
- ④鎌倉国宝館では、昇降機の更新以外の施設老朽化対策について、予算の範囲内では十分な実施ができなかった(文財-08)。

(4) 平成28年度の取組の評価

◎歴史まちづくり推進担当

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善

＜上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等＞

鎌倉歴史文化交流館の建物に係る整備が完了したが、竣工が年度末となったことから、その後の準備作業（展示品の搬入、展示作業等）に時間を要したため、開館時期を平成29年5月に延期した。
 周辺住民に配慮した開館時間等（日曜祝日等閉館、開館時間10:00～16:00）については、議会の付帯決議とされており、開館する中で住民環境等への影響などを見極めながら、住民との話し合いの場を設け、ご理解をいただきながら、日曜・祝日開館への取り組みを進めていく。

◎文化財部

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	☐ 適切	☒ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当（適切）な取組であったか	☒ 適切	☐ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	☐ 適切	☒ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない（適切な）取組であったか	☒ 適切	☐ 要改善

＜上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等＞

- ・発掘調査実施までの施主の待機時間は短縮されているが、報告書未刊行資料はいまだ多い（文財-05）。
- ・発掘調査により出土品は毎年増加しており、保管場所の確保と出土品の整理は課題として残っている（文財-05）。
- ・文化財保存修理助成事業については、現状は所有者の申し出に応じて、必要な補助金を交付できるよう予算措置を行っている状況だが、文化財の状況を正確に把握し、適切な修理が円滑に行えるよう、方針を明確にするとともに、修理工程等の調整が必要である。また、今後大規模修繕を行う予定の文化財があるため、予算措置や工程等について調整する必要がある（文財-06）。
- ・機会をとらえて文化財の周知・宣伝等を行ってきたが、十分とは言えない（文財-07）。
- ・遺物の展示箇所の確保、再整理済み遺物の活用が十分に行えていない（文財-07）。
- ・鎌倉国宝館において、昇降機の更新、免震型展示ケース2台の導入を行い、文化財がより確実に保存できる体制が整えられた（文財-08）。
- ・鎌倉国宝館では、特別展開連講座や出張講座といった一般向けの公開講座を実施したほか、市内外の小中高等学校の観覧時にも特別解説等を実施することで、学校教育との連携ができた（文財-08）。
- ・鎌倉国宝館においては、観覧料の導入等により受益者負担は公正・公平である（文財-08）。

3 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

◎歴史まちづくり推進担当

- ・周辺の住環境に配慮しつつ、市民等に親しまれる魅力的な施設となるよう、積極的な運営及び維持管理を行う。
- ・市内他文化施設等と連携し、鎌倉の歴史・文化の魅力や重要性を発信する。

◎文化財部

- ・未整理出土品の早急な整理のための調査・研究体制について検討していくとともに、展示機会を増やしていく（文財-05）。
- ・文化財の学校展示を増やし鎌倉の歴史や文化に関する情報や学習機会の充実を図るため、学校教育との連携を一層深めていく（文財-07）。
- ・本施策の方針では、市民評価委員会からも経費についての指摘があり、これまでも修理等については、緊急性、必要性等を考慮しながら実施しており、また支出額についても、自主財源の確保を図るとともに、市民からも貴重な文化財を後世に引き継ぐ重要性について理解を得るよう今後も周知を図っていく（文財-06）。
- ・鎌倉国宝館では、引き続き文化財を適切な状態で保存し、一般公開を行うとともに、学校教育・生涯学習事業との連携に努める。また、免震設備の導入を引き続き進めることで、文化財のより確実な保存を図る（文財-08）。

4 平成29年度の目標

◎歴史まちづくり推進担当

- ・平成29年5月開館を目指し、鎌倉歴史文化交流館の開館準備を進める。
- ・周辺の住環境に配慮しつつ、市民等に親しまれる魅力的な施設となるよう、積極的な運営及び維持管理を行う。
- ・広報、SNS等において、積極的に施設のPRを行う。

◎文化財部

- ・発掘調査費補助金制度を活用しながら、発掘調査待機期間の短縮を図る。また、報告書未刊行の出土資料整理の促進を図る。
- ・鎌倉の歴史文化に対する理解を促進するため、これまで以上に出土品の展示機会の拡充に努めるとともに、発掘現場見学や国宝館及び鎌倉歴史文化交流館との連携などを通じて教育や学習に役立てる機会を設けていく。
- ・鎌倉国宝館では、展覧会の開催、収蔵品の充実、学校教育・生涯学習事業との連携に努めていく。また、これらの事業について様々な媒体を活用し周知を行う。
- ・鎌倉国宝館では、平成28年度に引き続き、免震型展示ケースの導入を実施し、文化財がより適切に保存できる体制を整える。

5 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	歴史-03	事業名	鎌倉歴史文化交流館管理運営事業										
指標の内容	(仮称)鎌倉歴史文化交流センターの設置					単位	%	指標の傾向	↗	備考			
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	市民等に親しまれる施設を目指し、展示製作業務、建物改修工事等を実施し、平成29年4月の開設を目指すため。					
目標値	30.0	60.0	90.0	100.0	100.0	100.0							
実績値	30.0	40.0	90.0										
達成率	100.0%	66.7%	100.0%										
整理番号	歴史-03	事業名	(仮称)鎌倉歴史文化交流センター設置事業										
指標の内容	(仮称)鎌倉歴史文化交流センターの運営					単位	—	指標の傾向	⇒	備考			
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	市民等に親しまれる施設を目指し、円滑な運営・維持管理を行う。					
目標値	維持管理	維持管理 開館準備	維持管理 開館準備	維持管理 施設運営	維持管理 施設運営	維持管理 施設運営							
実績値	維持管理	維持管理 開館準備	維持管理 開館準備										
達成率													
整理番号	歴史-03	事業名	(仮称)鎌倉歴史文化交流センター設置事業										
指標の内容	(仮称)鎌倉歴史文化交流センター入館者数					単位	人	指標の傾向	—	備考			
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	周辺環境に配慮しながら、適切な運営を行う上で、施設の有効性を把握するため。					
目標値				60,000.0	60,000.0	60,000.0							
実績値													
達成率													
整理番号	文財-05	事業名	文化財調査・整備事業										
指標の内容	発掘調査までの待機時間					単位	月	指標の傾向	↗	備考			
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	待機時間の縮減が課題であるため					
目標値		6.0	6.0	6.0	6.0	6.0							
実績値	11.0	8.0	4.0										
達成率		133.3%	66.7%										
整理番号	文財-06	事業名	文化財保存・修理助成事業										
指標の内容	保存修理件数					単位	件	指標の傾向	⇒	備考			
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	着実に保存修理を実施することにより、貴重な文化財をより良い状態で未来に引き継ぐことができるため。					
目標値	7.0	8.0	9.0	10.0	11.0	12.0							
実績値	12.0	11.0	12.0										
達成率	171.4%	137.5%	133.3%										
整理番号	文財-07	事業名	公開宣伝事業										
指標の内容	鎌倉市遺跡調査・研究発表会観客数					単位	人	指標の傾向	⇒	備考			
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	観客数が多いほど、より多くの市民が、市内の埋蔵文化財への理解を深めていると判断できるため。					
目標値	280.0	280.0	280.0	200.0	200.0	200.0							
実績値	280.0	280.0	120.0										
達成率	100.0%	100.0%	42.9%										
整理番号	文財-08	事業名	国宝館管理運営事業										
指標の内容	入館者数					単位	人	指標の傾向	↘	備考			
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31	当該事業へのニーズや反響を把握するため。					
目標値	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000							
実績値	30,875	50,585	44,961										
達成率	44.1%	72.3%	64.2%										

**鎌倉市民評価委員会からの指摘
課題**

- ・財政状況が厳しい中、市民意識調査において「経費をかけすぎている」という意見が多いこと等、効率性の面で検討が求められる。
- ・文化財保存に関する必要性等、市民に周知を図っていくことが求められる。
- ・実績値が目標値を大きく下回っているにもかかわらず、本年度の目標値が見直されていない。その他の指標も事業の進捗を表すものとなっていないため、再考することが求められる。
- ・市民評価委員からの指摘に対して「現状も限られた予算の中で、緊急性、必要性などを考慮して文化財の修理等を行っている。」とあるが、それらの評価結果が分からない。
- ・「伝統芸能の保護・技術の伝承が図られている」まちの姿が事業の中に見受けられない。
- ・国の文化財で市は介入しにくい事業だったのかもしれないが、八幡宮の若宮大路の改修結果があまりに歴史的風格のないものになってしまったと感じた。コストや管理のこともあったと想像するが、今後もこのように市内の歴史的財産の改修がなされていくことに不安を感じる。

提言

- ・「鎌倉歴史文化交流センター」の平成29年4月開設について遅滞なく進められたい。また、同センターにおいては、小中学校等と連携し、魅力的なメニューを検討すべきである。
- ・歴史的風致維持向上計画の推進がうまくいかないと、歴史文化交流センター自体にも影響を及ぼしてしまう印象を受ける。良い施設となるよう、努力してほしい。
- ・「博物館」については、既存概念にとらわれない広範な視点から検討すべきである。
- ・市民意識調査には小中学生、高校生の評価は含まれていないので、学校等との連携による学習効果を測定する方策を検討すべきである。

指摘への対応、コメント等

- ◎文化財部
昨年度と比べ、市民調査では費用対効果はちょうどいいと感じている人が増えている。今後も効果的な事業運営や事業内容に対する市民の理解が深まるように努める。
- ◎文化財部
冊子の発行等これまでも周知には努めてきたが、これからも周知を図っていくとともに出土品の展示機会を拡充するなど新たな方法も模索する。
- ◎文化財部
実績に基づいた適正な目標値の導入について、全庁的に検討していきたい。
- ◎文化財部
修理をせず放置することにより、過去から引き継がれた貴重な文化財が劣化してしまう。これらを次世代に確実に引き継ぐため、専門家の意見を聴きながら修理を行っている。また、修理された文化財については、所有者との連携を図りながら、公開に努めていく。
- ◎文化財部
今後も郷土芸能大会や祭ばやし大会を実施することで、子供たちに伝統芸能に親しみを持ってもらい、技術伝承等がより効果的に行われるよう努めていく。
- ◎文化財部
八幡宮段葛は国史跡鶴岡八幡宮境内に指定されており、整備事業の実施にあたっては、鶴岡八幡宮が有識者からなる整備検討委員会を設置し、文化庁・神奈川県・市が参画する中で史跡に相応しい整備計画を策定した。

提言に関するコメント等(総論)

- ◎歴史まちづくり推進担当
鎌倉歴史文化交流館の建物に係る整備が完了したが、竣工が年度末となったことから、その後の準備作業(展示品の搬入、展示作業等)に時間を要したため、開館時期を平成29年5月に延期した。開館後は、適切に管理及び積極的な運営を行うと共に、子ども達が鎌倉の歴史や文化に興味を持つ機会となるよう、魅力的な体験メニュー等を展開していく。また、(仮称)鎌倉博物館については、鎌倉歴史文化交流館の運営に合わせて、柔軟に検討を行いたいと考えている。
- ◎文化財部
文化財保存修理については、今後も優先順位をつけて着実に履行する。

・保存修理件数の目標を年間1件毎に増やすことを目標にしているが、修理費用はそれぞれ違うため、修理対象が全体でどれくらいあるのかを明確にし、年間予算を考慮して中長期の買収計画を策定すべきである。

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・鎌倉歴史文化交流館の改修工事が完成し、利用が始まった。
- ・鎌倉国宝館においては7回の特別展と1回の平常展を開催し、関連の講演会を実施するなど、魅力ある展示の企画・実施に努め、入館者の増加を図った。
- ・発掘調査の待機期間について、補助金制度を活用しながら短縮を図った。
- ・具体的な年度計画を策定し、着実に実施しているとともに、実施できなかった事業についても把握し、具体的な対応を検討している。
- ・評価結果や市民意識、委員会からの意見等も考慮し、今後の方向性などを含め、具体的な指針を示しそれに向かった取組を行っている。

評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↑	6	↓	0	→		↑
効果	○	5	△	0	－		○

《課題》

- ・鎌倉歴史文化交流館の完成が市民からの評価に繋がっていると考えると、これから近隣住民の理解を得ながらどう運営していくのが課題である。また、鎌倉を知る施設として有効的に機能させていく必要がある。
- ・600件あるとされる「鎌倉市指定文化財」であるが、「史跡」と同様に「減ることはない」存在である。少子化・高齢化の進展を踏まえ、保存修理の自主財源問題について長期的な展望を示すことが課題である。
- ・財政状況が厳しい中、市民意識調査において「経費をかけすぎている」とい意見が多いこと等、いずれの施設・文化財の維持管理について、経費をかけるばかりになってしまっていないか。効率性の面で検討が必要である。

《提言》

- ・いよいよオープンした鎌倉歴史文化交流館を含め、各施設については型にはめることなく、収支バランスを考えて様々な運用・活用を行い財源確保も積極的に行ってほしい。
- ・鎌倉歴史文化交流館の利用率を上げるためには、より広報や案内などを充実させる必要がある。これについては近隣住民からの理解を得づらいという事から実施が難しいといった意見もある。「近隣住民は施設利用料を無料にする」「得られた収入で近隣の警備や清掃を行うことで、以前よりも清潔で安全な環境を提供する」など、利用率を上げることで近隣住民にメリットが生まれるような取組について、検討すべき。
- ・鎌倉歴史交流館と学校教育と連携がどこにも予定されていないが、予定がすでに組み込まれているのなら、評価の対象になり得るので活字にしておいてほしい。
- ・600件ある文化財の年間保存修理件数が平成28年度12件では多くの文化財がその対象とならない。逆に「市指定文化財」については「指定解除」を検討してほしい。
- ・発掘調査実施の待機時間の削減を目標としているので、指標にも含めるべき。
- ・本庁舎4階の展示スペースの整備にかなりの労力が使われているようであれば、歴史文化交流館の充実や活用に労力を集中すべき。

《質問》

- ・文化財関連施設の入館者数実績は他自治体同種施設との比較で指標化出来ないか。
- ・新規の「文化財関連施設運営」の採算性見込みについては開設以前に情報開示されているか。